

リンゴ褐斑病の一次感染期にはマンゼブ水和剤 (商品名：ジマンダイセン水和剤) が有効である

福島県農業総合センター 果樹研究所 病害虫科

1 部門名

果樹－リンゴ－病害虫防除

2 担当者名

小松健太郎、日下部翔平

3 要旨

リンゴ褐斑病菌は罹病落葉で越冬し、形成される子のう胞子が一次伝染源となるが、近年は開花期に一次感染する事例が確認されていることから、開花期からの本病に対する薬剤防除が必要となる。そこで、開花期におけるマンゼブ水和剤（商品名：ジマンダイセン水和剤）の防除効果について、現行の農作物病害虫防除指針において開花期から落花2週間後に使用しているチウラム水和剤（商品名：チオノックフロアブル）及びジチアノン水和剤（デランフロアブル）と比較した結果、本剤が有効であることが明らかとなった。

(1) 2025年に開花直前～落花2週間後にかけて3回散布した結果、マンゼブ水和剤はチウラム水和剤よりも高く、ジチアノン水和剤と同等に高い防除価を示した（表1）。

表1 リンゴ褐斑病の一次感染期における防除効果（2025年）

供試薬剤	倍数	果そう調査(8/25)			防除価	新梢葉調査(9/10)				
		調査果そう数	発病果そう数	発病果そう率(%)		調査葉数	発病葉数	落葉数	発病葉率(%)	
マンゼブ水和剤	600倍	150	3	2.0	97.7	461	20	0	4.3	93.7
チウラム水和剤	500倍	150	48	32.0	63.6	424	64	26	20.0	70.8
ジチアノン水和剤	2,000倍	150	1	0.7	99.2	478	18	4	4.6	93.3
無処理		150	132	88.0		264	107	236	68.6	

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和7年度
- (2) 研究課題名 安全で効率的な新農薬・新資材等の実用化〔全国農業協同組合連合会委託事業〕

5 主な参考文献・資料

- (1) 小松ら, リンゴ褐斑病の開花期における感染リスク, 令和6年度参考となる成果